

◆暮らしサポート サポート・ワン◆訪問介護
 ナイス・ケア◆通所介護ナイス・デイ◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介
 つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら◆鍼灸てのひら治療院



vol. 251通信
 R3年7月7日発行

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
 愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
 代表TEL：(0567) 26-3921
 FAX：(0567) 26-3922
 ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

問合わせ・見学 大歓迎！！

《利用状況案内板 (☆募集中★満員)》

☆ナイス・ケア
 ☆ナイス・デイ (定員 10名)

月	火	水	木	金	土
7	7	7	5	7	7

☆ナイス・ホーム (定員 17名、現在登録者 13名)
 ☆愛宕の家 (定員 17名中入居者 11名)
 ☆つしま紹介所 (有料職業紹介)

《7月行事予定》

20日 避難訓練
 運営推進会議
 (ナイス・ホーム)書面にて開催予定

※少しずつ外出等は行っていますが、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、密になる行事は自粛しています。
 ※今後の行事予定も状況に合わせて変更する可能性があります。ご了承下さい。

《営業に関するお知らせ》

・打太鼓 → 休止中
 ・コーラス → 休止中
 ・ナイス・キッズ (学童・託児)
 →令和3年度:受け入れ休止中
 ・喫茶てのひら
 →時短営業(9:00-12:30)
 ※10名までの人数制限中
 ・鍼灸てのひら治療院
 →利用者さん・職員に限定し営業

詳細はお問い合わせ下さい。



どんな形にする？/愛宕の家

最近、普通食を食べにくい方が増えてきました。軟食や刻み食、ミキサー食等、一人一人食べやすい形状が違ってきます。そのため、準備も大変。かと言って、パターンを決めてしまうと、もっと大変。なぜって、スタッフ同士、言い合いになるのです。何を言い合いするかって、Aさんに軟食がおいしいかミキサー食がおいしいか。そもそも、普通食で咀嚼してもらうことのほうが大事だ・・・なんて、意見が飛び交います。

結果、今日のその人の体調や嗜好品、メニューによって、形状を考える・・・という結論に行きつくのです。だから、お膳の中に、そのままの形状で出すもの、ミキサー食にするもの等、一人のお膳でも別々の形状が並びます。

嚥下機能が低下している場合、食事の形状は命に関わる事態に直結します。でも、逆もあり、食べられる楽しさや意欲がなくなってしまうことも、また命に直結するのです。口から美味しく食べられる、今、その時、咀嚼する、嚥下する力をどう引き出すか。毎日毎食の課題です。(K・T)

登録家政婦さん、介護スタッフさん大募集♪



コロナワクチン接種の有無に関係なくサービス継続します/SOS

“コロナワクチンハラスメント”という言葉が聞かれるようになりました。コロナワクチンを接種したか、していないかによる差別扱いです。職場におけるいじめ、嫌がらせも問題になっているようです。あくまでもコロナワクチン予防接種は、
 ・任意であること
 ・個人の様々な事情により接種したくてもできない人もいること
 これらが大前提です。よって、弊社では業務中による以下の対応を統一することと致します。

- ①『コロナワクチン接種は接種したか、していないか』という個人へ質問はしない
- ②『コロナワクチンを接種したか、していないか』という個人への質問に返答しない

ただし、弊社では利用者様及び職員の接種状況を把握していますが、ワクチン接種後の体調確認や勤務調整を行うことが目的です。ワクチン接種の有無に関係なく、感染対策を行いながらサービスの継続に努めます。何卒、ご理解ご協力お願い申し上げます。

代表取締役 飯尾 敦子

自宅で生活を再開するために・・・/ナイス・ホーム

Bさんは一人暮らし。ある日、圧迫骨折で急に動けなくなってしまったのです。一人暮らしのため、ご家族と相談の上、通いと泊りの利用をして24時間ナイス・ホームで過ごすことになりました。期間は決めず、安心して自宅に戻れるまで・・・。

しかし、私達の目に、Bさんは自分が”ちょっとした事で尻もちをつき、圧迫骨折してしまった事”にとても落ち込んでいるように見えました。そんなBさんを見ていると、このまま自宅で生活することに不安を感じ、外出する意欲が薄くなってしまふような気がしました。そこで、その不安を払拭するために連泊を利用する中で、在宅復帰に向けたリハビリスタートです。

- 👉 自宅の玄関前にある階段の上り下りが出来るようになる→同じような階段での上り下りの練習。
- 👉 ご自宅の洗濯干しの竿は高めに設置されているため、腕を挙げて洗濯が干せる練習→毎日、ホームの洗濯物を一緒に干す。等々、痛みを確認しながら、自宅での動きを想定したリハビリが始まります。そして、リハビリの様子から自宅のどこに何があればより安全に過ごせるか考えます。
- 👉 手すりの設置。

次は手すりが設置された自宅に、Bさんが一人で日中だけ過ごす練習。徐々に自宅で過ごす時間を作る事でBさんも「これなら自宅で生活できるかもしれない」と自信が持てるようになりました。

こんな関りをさせてもらえるのは、訪問・通い・泊りのサービスがある小規模多機能居宅介護の醍醐味。圧迫骨折から約1ヶ月。いよいよ、自宅での生活が再開されます。(Y・O)



ゆっくり寄り添う事でより良い関わりに繋げたい

《編集後記》 じめじめした梅雨で身体の不調も出てくるこの季節。朝食をしっかり食べ、温かいもの(マグネシウムやビタミンB)を摂ると良いですよ～(Y・O)

“ちょっと待ってください”/SOS

『病院の先生に、この状態では療養型の施設しか無理ですよと言われたので、その選択肢しかないと思っていました。』

この言葉をよく耳にしています。勿論、療養型施設は医療法人が運営する施設で、看護師の人員配置が他の施設より手厚いのは事実。でも、待ってください。その説明をする前に、ご本人やご家族に、病院から退院した後、どんな生活を送りたいのか、残された時間、どう生きていきたいか聞いてもらえませんか？そして、その気持ちに少しでも寄り添った生活を送れる方法がないのか、より広い選択肢を提案してほしいのです。

この地域でどんな手段があるのか、それを地域全体で考えること、医療と介護の連携をとること、つまり地域連携。それは私達(病院、ケアマネ、ヘルパー、施設職員、看護師、医師、薬剤師等)の責務だと思っています。(M・T)

SOS通信はホームページへの掲載と合わせ、地域の関係者や事業所、ご家族様へも発送しています。

7月の発送部数 89部